ホイル型前引運搬車

取扱説明書

SL30

イラスト：SL30DB

ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

●このたびは、本製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

●この取扱説明書は、本製品を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項及び、最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。

●本製品を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。説明書を紛失・損傷された場合は、速やかにお買い上げいただきました販売店・特約店にご注文ください。

●本製品を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容・イラストなどの一部が、本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただきました販売店・特約店にご相談ください。

●この取扱説明書では、同じ種類の各型式について併記してあります。お買い上げいただいた本製品の型式を機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をよくお読みください。

機　種　型　式	仕　様　記　号
ＳＬ３０	各型式記号の後に仕様を表す記号があります。 Ｂ‥‥‥‥リコイルスタータ仕様（標準） ＥＢ‥‥‥‥セルスタータ仕様 ＤＢ‥‥‥‥油圧ダンプ荷台・リコイルスタータ仕様 ＤＥＢ‥‥‥‥油圧ダンプ荷台・セルスタータ仕様

⚠注意　●本製品は、圃場内運搬車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

目　次

重要・安全ポイントについて

1.路肩・軟弱地で使用するときは、
転落・転倒しないように十分注意してください。

2.坂道で使用するときは、
急旋回・Uターンは避けてください。

3.運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。

4.点検・調整をするときは、
必ず原動機を止め、機械の停止を待ってください。

5.補助者と共同作業を行うときは、
合図をし、安全を確認してください。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、具体的な安全上、取扱い上の重要なポイントについては、本書のなかで ⚠重要 の記号を付して表示し、説明しております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

この中で特に重要な事項については、安全表示ラベルにして本製品に貼付してあります。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

● ⚠重要 表示は下記のように安全上、取扱上の重要なことを示しています。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しています。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しています。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

安全表示ラベルの注意

■本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただきました販売店・特約店へ注文してください。
■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店・特約店へ注文してください。
■安全表示ラベル貼付位置については、次ページを参照してください。

安全表示ラベル貼付位置

安全表示ラベル貼付位置

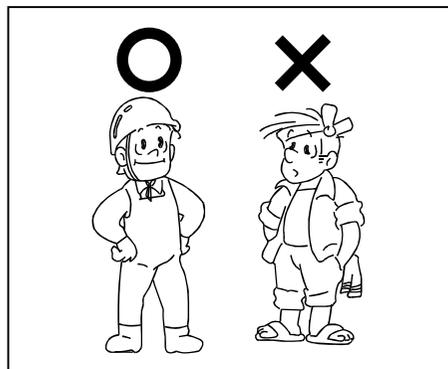
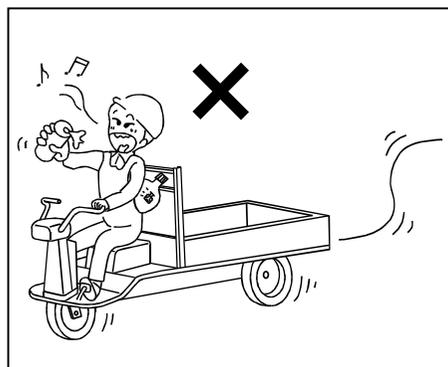
安全のポイント

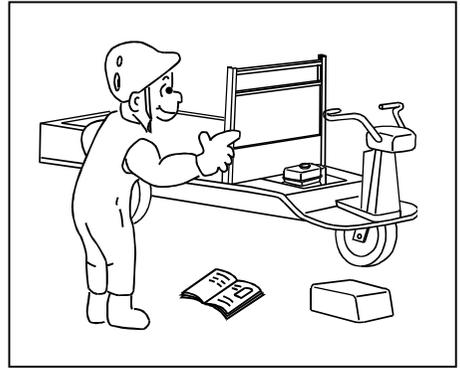
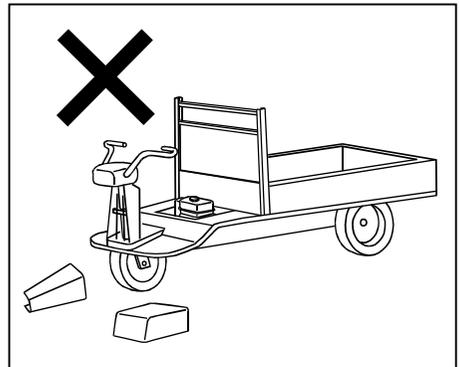
安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

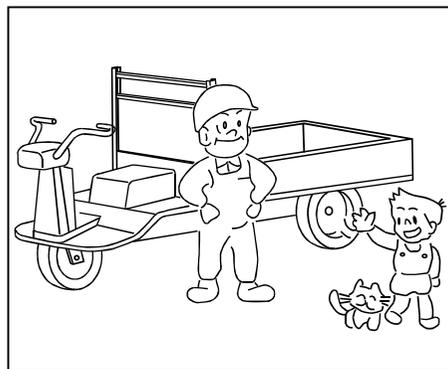
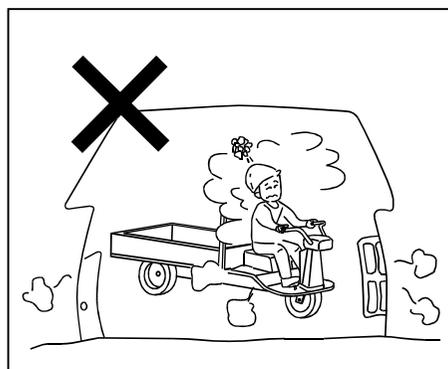
(1)　服装は作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。

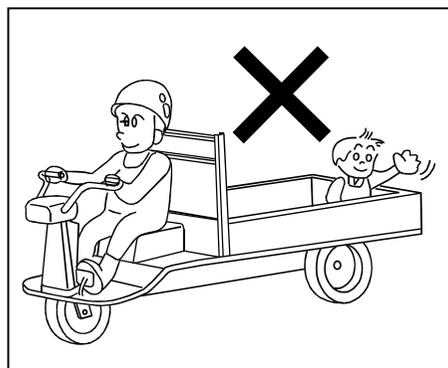
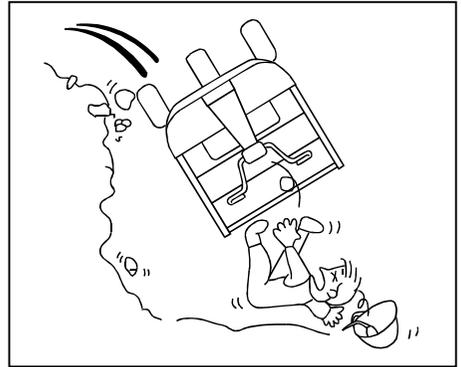
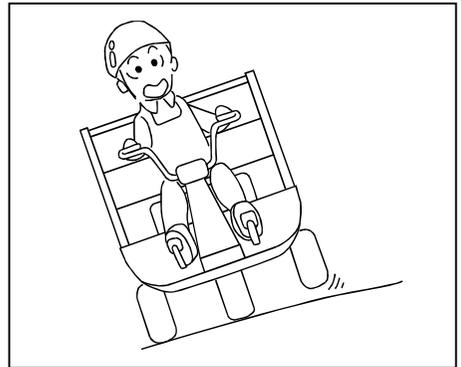
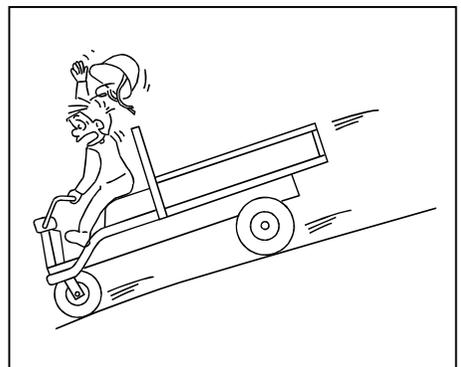
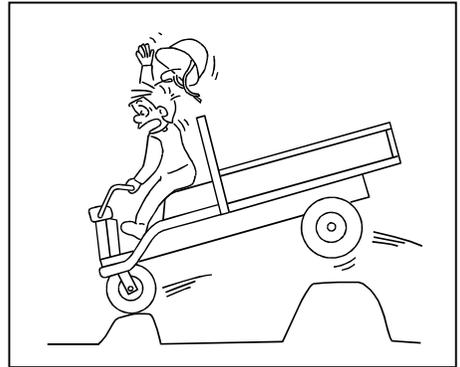
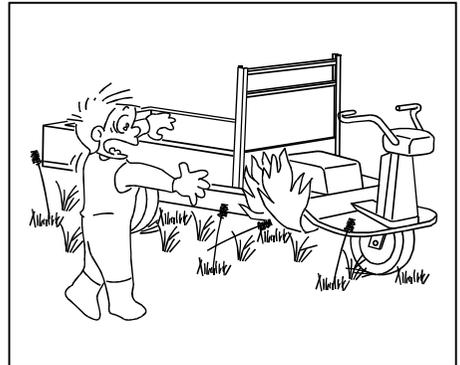
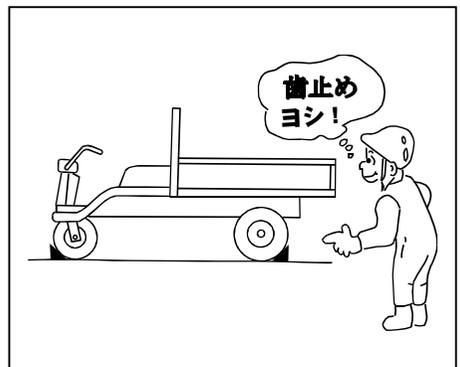
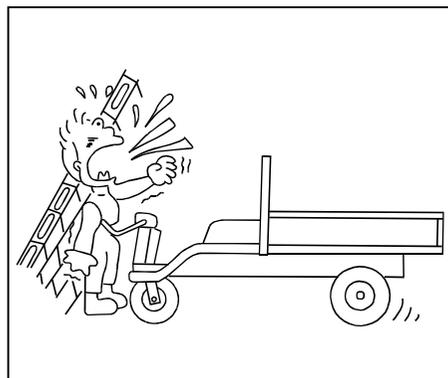
ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

(2)　飲酒時や過労ぎみの時、または妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行うと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

■作業前に

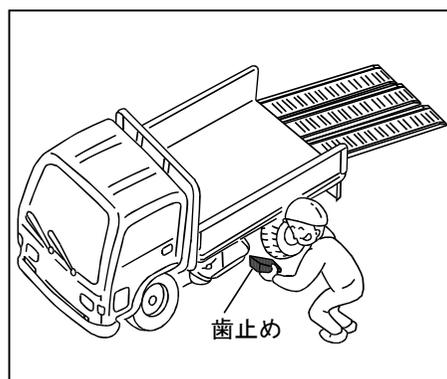
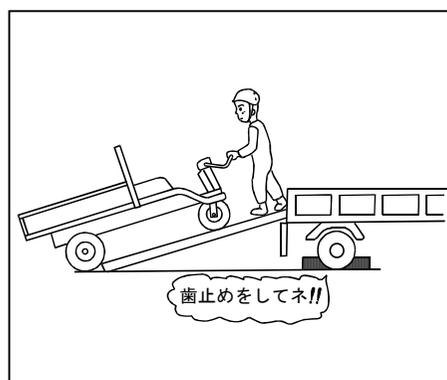
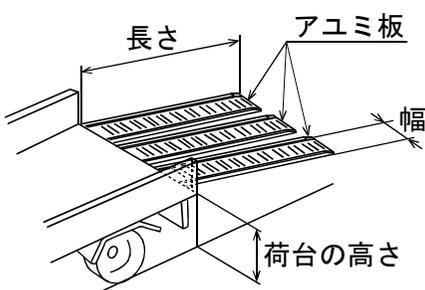
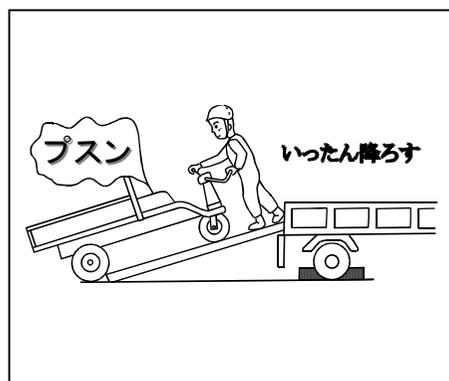
(1)　作業をする前に、本書の「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠るとブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(2)　安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。

(3)　燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行なってください。

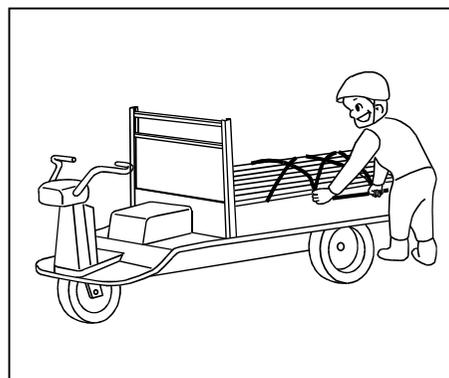
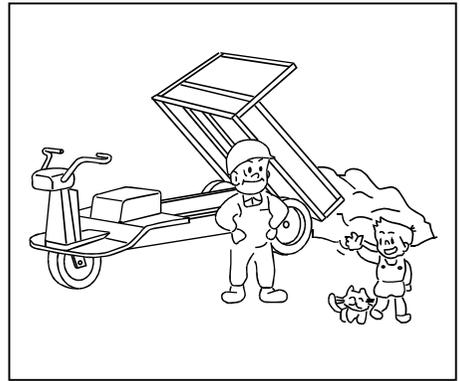
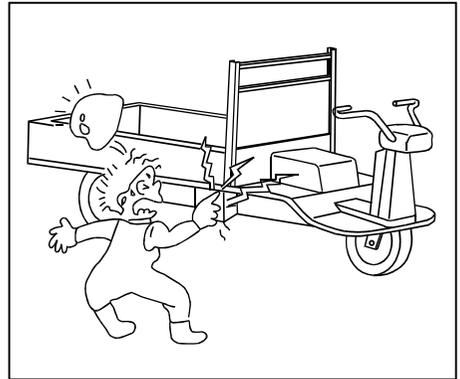
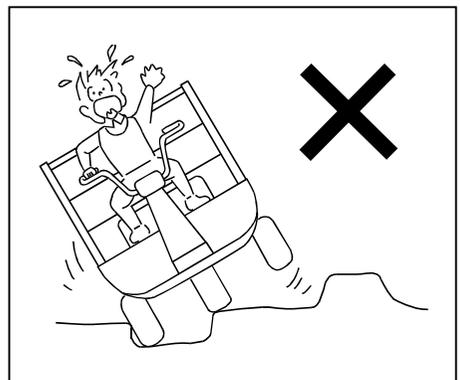
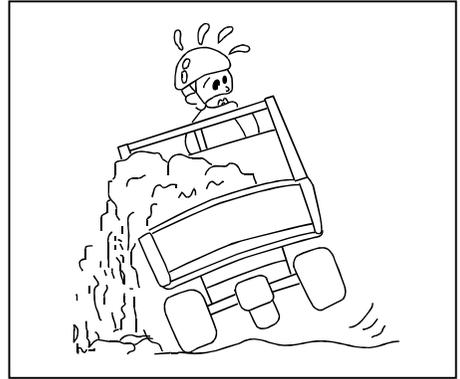
くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

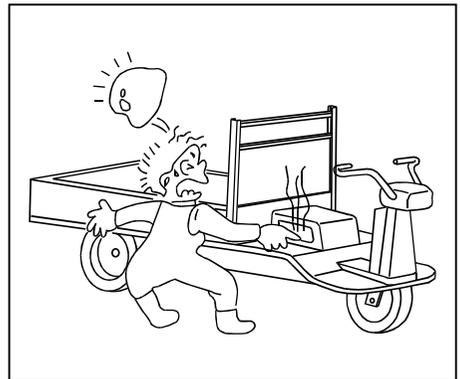
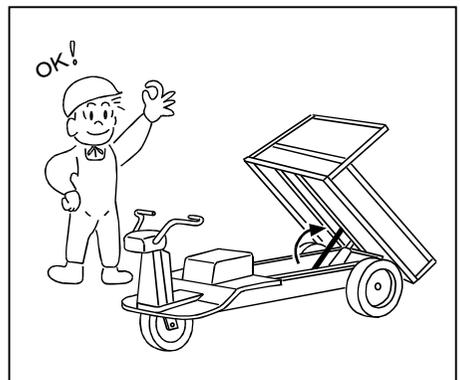
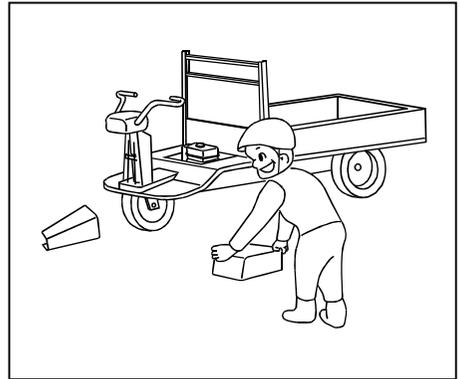
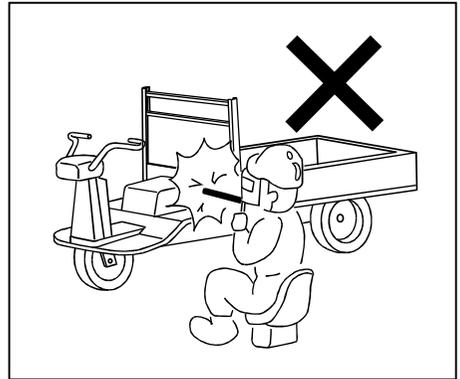
■始動と発進は

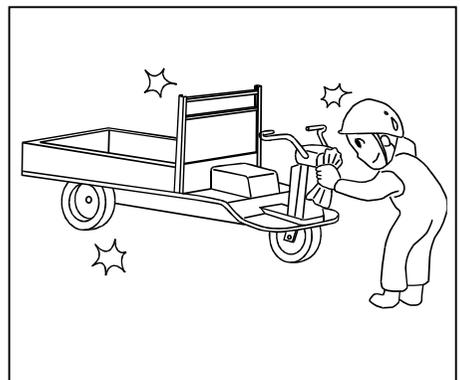
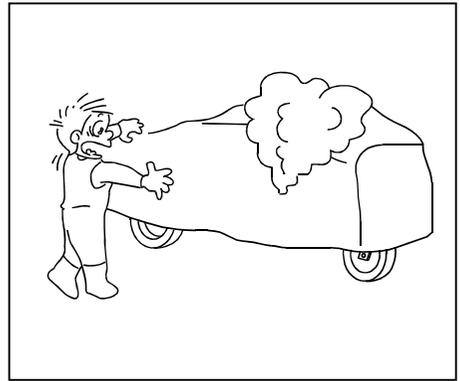
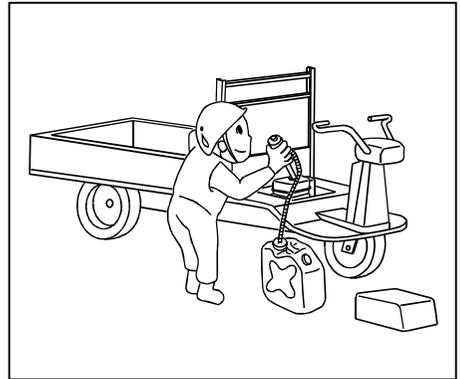
(1)　エンジン始動時は、クラッチを「切」に、また発進時は、各レバー位置と周囲の安全を確かめてゆっくりと発進してください。急発進は危険です。

(2)　室内でエンジンをかけるときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

■走行するときは

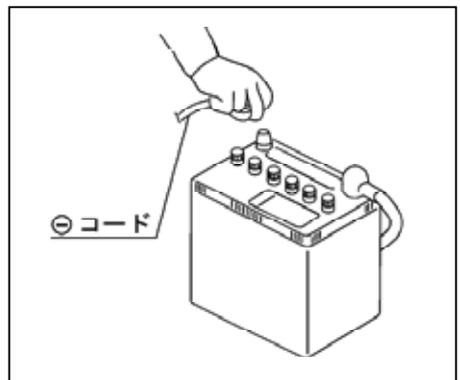
(1)　いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。急旋回、重心の移動等により大変危険です。

(2)　凹凸の激しい所・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を十分に落とし安全な速度で運転してください。衝突・転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(3)　傾斜地は、まっすぐに昇り降りしてください。傾斜をよこぎると転倒する恐れがあり大変危険です。

(4)　坂道を下りるときは、エンジンブレーキを必ずかけ、走行クラッチレバーを切ったり、チェンジレバーを中立位置にしないでください。また、足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。

(5)　凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。
これを怠ると衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。

(6)　草やワラ等可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となります。

(7)　停止場所は広く硬い所を選んでください。また、本機から離れるときは、駐車ブレーキをかけ歯止めをしてください。機体が自然に動きだすなどして大変危険です。

(8)　わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。特に歩行運転時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。

■積込み・積降ろし

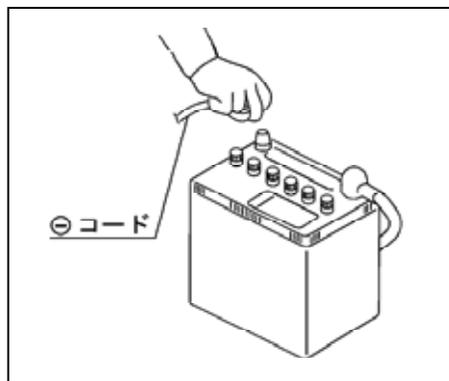
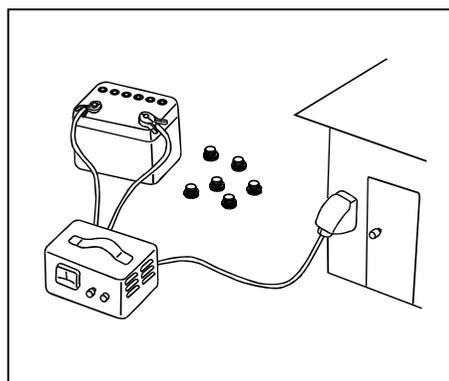
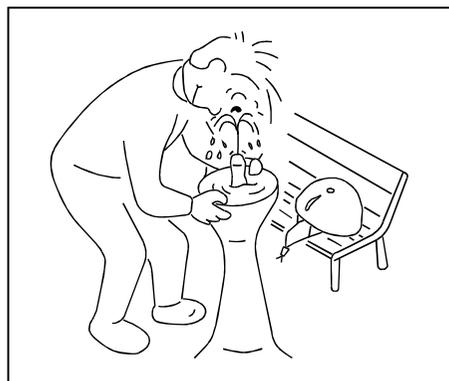
(1)　トラックはエンジンを止め、動かないよう駐車ブレーキ・歯止めをしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2)　積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定め、微速に行ってください。アユミの上で方向修正などは転落事故の原因となり大変危険です。

<table>
<tr><td><　アユミ板の基準　></td><td rowspan="2">
</td></tr>
<tr><td>●長　さ…荷台の高さの４倍以上
●　幅　…本機車輪幅の 1.5 倍以上
●強　度…車体総重量の 1.5 倍以上（１本当り）
●すべらないよう処理されていること。
●アユミは３本使用のこと。</td></tr>
</table>

(3)　万一、途中でエンストした場合は、すぐにブレーキをかけ、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、改めてエンジンを始動させてください。

■作業中は

(1)　積載要領を守り、ロープ等により積荷が移動しないようしっかりと荷台に固定してください。過積載は、操作ミスを引き起こし大変危険です。

(2)　ダンプ作業など作業を開始するときは必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(3)　運転中は、回転部やエンジン・マフラー等の高温部、またはバッテリー端子等の通電部など、危険な箇所には手や体を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(4)　溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミを使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これを怠ると、脱輪やスリップ等により転倒する恐れがあり大変危険です。

(5)　荷を積むときは、重心が機体の中央になるよう、また重心が高くならないようにしましょう。重心が高くなったり、かたよると転倒の原因となり大変危険です。

■点検整備は

(1)　エンジンを切ってすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行ってください。怠ると、火傷などの原因となります。

(2)　点検整備は、必ずエンジンを停止、駐車ブレーキをかけて行ってください。荷台をダンプさせて点検整備をする場合は、荷台落下防止棒をセットするか、十分強度のある木材等で降下防止策を施してください。怠ると急に荷台が落下し、はさまれるなど大変危険です。

(3)　点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や加熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

(4)　機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。

■保管・格納は

(1)　動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

(2)　子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

(3)　長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

(4)　長期間格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないとネズミ等がかじってケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です

（セル仕様[EB･DEB]）

■電装品の取扱い（セル仕様[EB·DEB]）

(1)　電気配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの⊖コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(2)　バッテリーを取り扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(3)　バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。
万一ついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。

保証とサービス

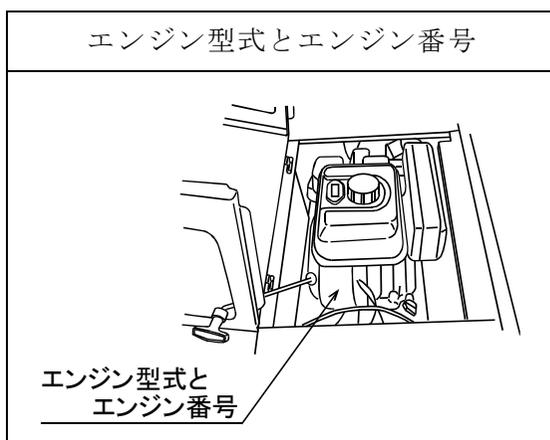
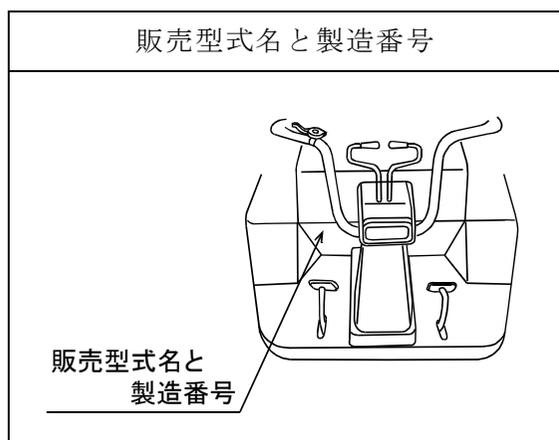
■新車の保証

この製品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げいただきました販売店・特約店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

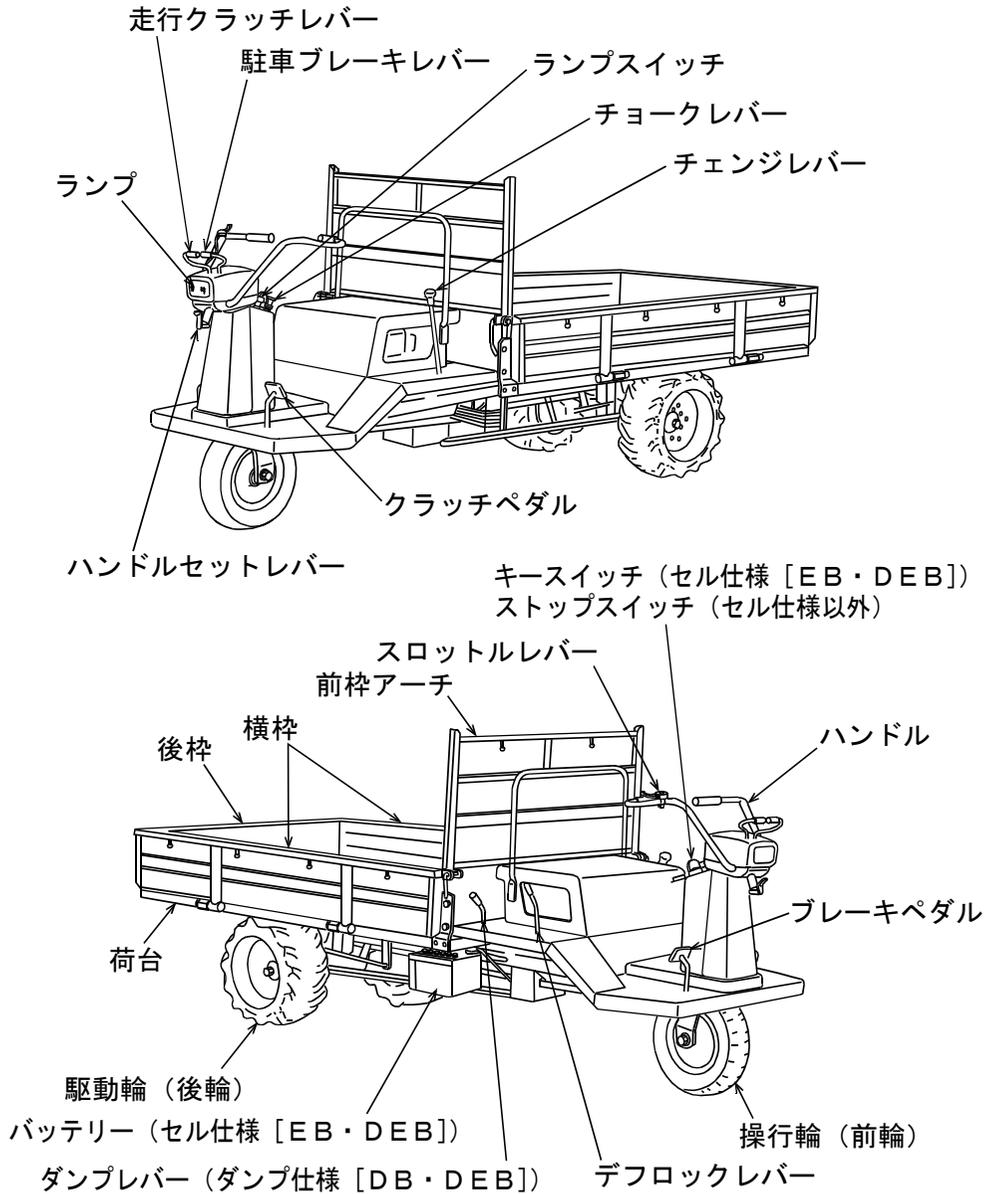
その際、販売型式名と製造番号をご連絡ください

販売型式名と製造番号	エンジン型式とエンジン番号

■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後７年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

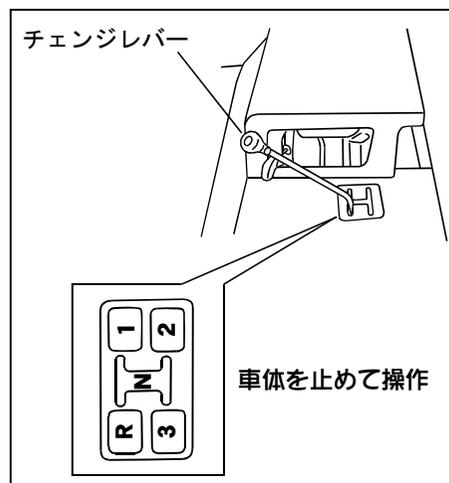
各 部 の 名 称

操作レバーの名称とはたらき

■チェンジレバー

前進３速・後進１速の変速ができます。

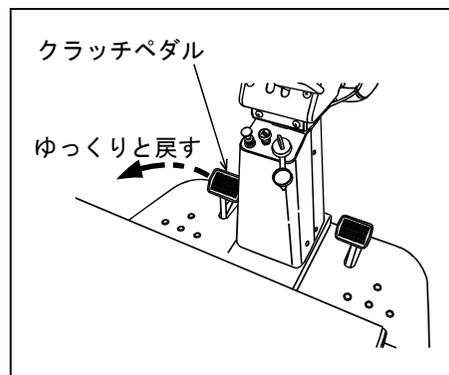
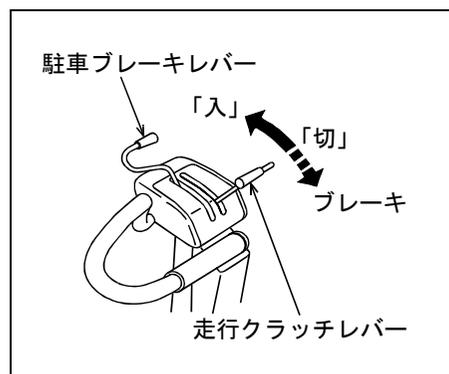
重要 ●チェンジレバーの切換えは、必ず車体が停止した状態で行ってください。

●チェンジレバーの無理な操作は、ギヤーボックス内部破損の原因となります。絶対にしないでください。

●チェンジレバーがスムーズに入らない場合は、走行クラッチレバーが「入」の状態でクラッチペダルをちょっとだけつなぎ、すぐに踏み込んで、再度チェンジレバーを操作してください。

■走行クラッチレバー

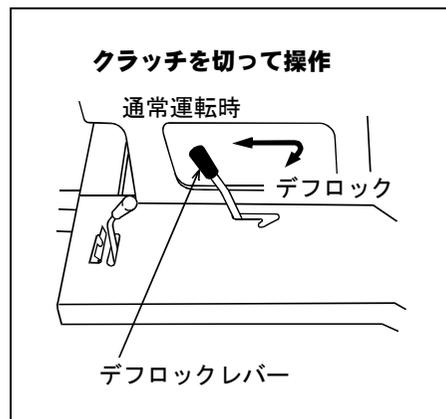
走行クラッチレバーを「入」位置に入れると、エンジンの回転がベルトにより、ギヤーボックスに伝達されます。

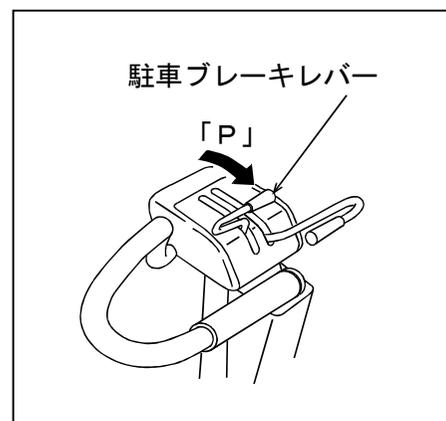
走行クラッチレバーは、駐車ブレーキと連動しており、駐車ブレーキの支点越えの少し手前まで制動操作ができます。

 ●走行クラッチレバーを「入」にし、クラッチペダルを踏み込んでからチェンジ操作を行い、クラッチペダルをゆっくりと戻すとスムーズに発進します。

■デフロックレバー

軟弱不整地や後輪の片方のみが回転して発進できない場合に使用できます。

重要 ●デフロックレバーを操作する時は、必ずクラッチを切ってから操作してください。

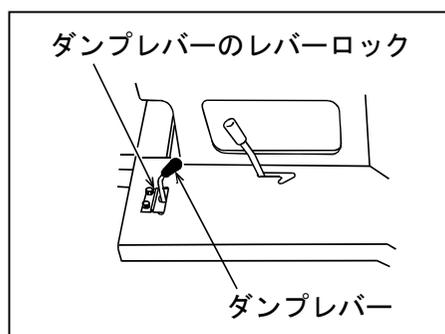
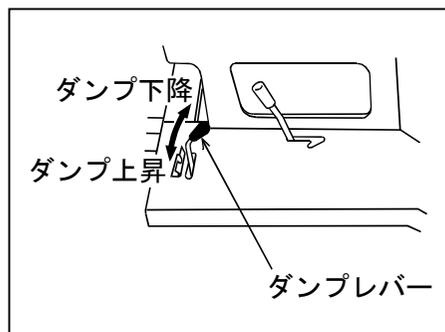
●通常運転時には、デフロックは使用しないでください。

■駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを「Ｐ」位置に入れると、駐車ブレーキがかかります。

⚠注意 ●駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると車体が自然に動きだしたりして大変危険です。

■ダンプレバー（ダンプ仕様[DB・DEB]）

ダンプレバーを操作すると、荷台がダンプします。

乗車運転時、前進方向に向かって

左に倒す（手前に引く）――→ダンプ下降
右に倒す（外向きに押す）――→ダンプ上昇
レバー中央 ――→中立

⚠危険

- 荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。手や足を荷台下に入れないでください。
- 点検・整備などを行うときは、必ず落下防止を施してください。
- ダンプレバー操作を行わないときは、必ずレバーロックをかけてください。

⚠注意

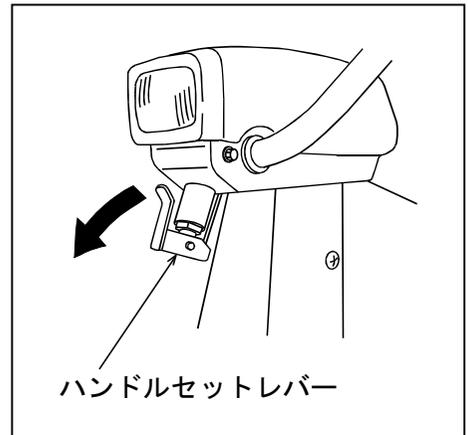
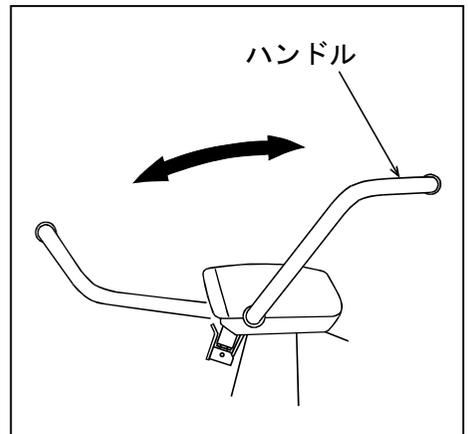
- ダンプレバー操作は、上昇・下降いずれの場合にも、必ずエンジンをかけた状態で行ってください。

重要

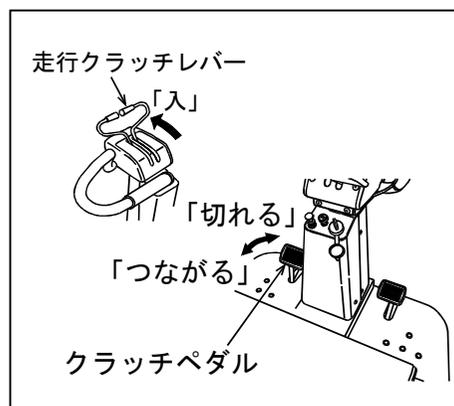
- ダンプ下降状態からダンプレバーでダンプ上昇操作をしても、油圧ポンプのリリーフ弁が作動（ピーという音がでる）して、ダンプ上昇しない場合は、荷物の積み過ぎですので、荷物を減らしてください。
  また、２０秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。
- 周囲の安全を確認してダンプ操作を行ってください。
- 走行中のダンプ操作は行わないでください。
- 足場の悪い所や、傾斜地でのダンプ操作はしないでください。

■ハンドルセットレバー

ハンドルは、歩行運転と乗用運転との切換えができます。

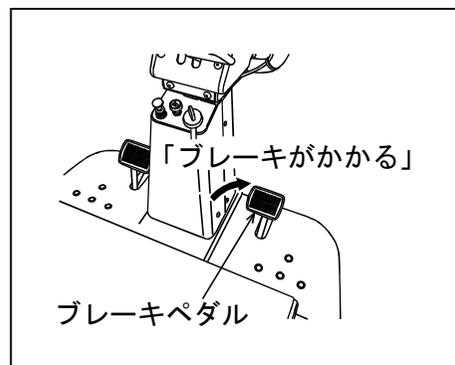
●ハンドルセットレバーを操作して、ハンドル位置を切換えてください。

重要 ●ハンドル切換え後は、ハンドルを上下に動かしてみて、確実にロックされているかを確認してください。

操作ペダルの名称とはたらき

■クラッチペダル

走行クラッチレバーを「入」位置にした状態でクラッチペダルを踏み込むとクラッチが切れ、クラッチペダルから足を離すとクラッチがつながります。

重要 ●クラッチペダルを踏み込んでから、走行クラッチレバーを「入」位置にすると、レバー操作が重くなります。

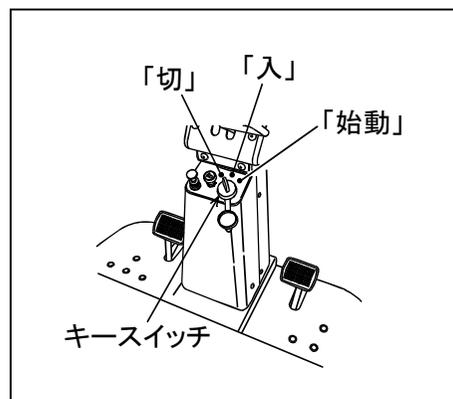
●クラッチペダルは、クラッチを切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。

■ブレーキペダル

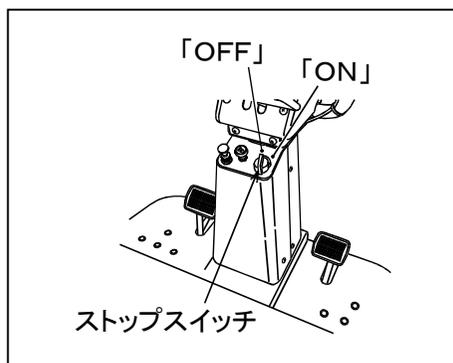
ブレーキペダルを踏むと、後輪にブレーキがかかります。

警告 ●坂道走行時など常時ブレーキペダルを踏んでいると、ブレーキの摩耗が早く、ブレーキの効きが悪くなり、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。ブレーキは良く効くよう、必ず定期的に点検してください。

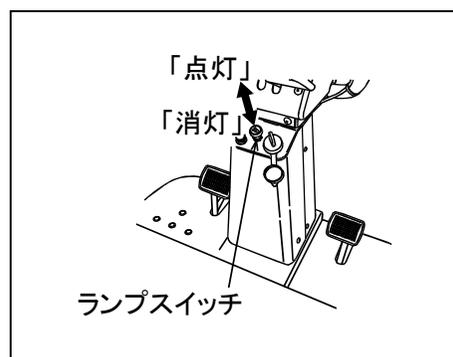
スイッチ類の名称とはたらき

■キースイッチ（セル仕様[EB・DEB]）

「切」・・・・・・・・エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置
「入」・・・・・・・・エンジン回転中の位置
「始動」・・・・・・エンジン始動する位置
手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。

重要 ●キーは確実に奥まで差込んでから回してください。奥まで差込んでいない状態で回すと、キーが折れたりキースイッチが破損したり、不具合につながります。

■ストップスイッチ（セル仕様以外の各型式）
エンジン始動時は「ＯＮ」位置にします。
「ＯＦＦ」位置にすればエンジンが停止します。

「OFF」
「ON」
ストップスイッチ

■ランプスイッチ
手前に引くとランプが点灯します。

 ●セル仕様は、ランプ点灯時でも、キースイッチを「切」位置にすると、ランプが消えます。エンスト等によりエンジンが停止し、キースイッチが「入」位置の場合には、ランプは消灯しませんので、消し忘れのないように注意してください。

作業の準備

使用前の点検について

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1)　前日、異常のあった箇所

(2)　車体を確認して
- エンジンオイルの量、及び汚れ･･････････････････････････････････３７ページ
- 燃料フィルタの水、沈殿物の点検････････････････････････････････３７ページ
- ギヤーボックスオイルの量、及び汚れ････････････････････････３７・３８ページ
- 油圧ポンプのオイル量、及び汚れ（ダンプ仕様）････････････････････３８ページ
- 油圧ポンプ駆動ベルトの張り具合、損傷（ダンプ仕様）･･･････････････４４ページ
- 走行ベルトの張り具合、損傷･･････････････････････････････････４０・４１ページ
- バッテリー液の量（セル仕様）････････････････････････････････････３９ページ
- タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷････････････････････････････････４５ページ
- エアクリーナの清掃････････････････････････････････････エンジン取扱説明書
- 燃料は十分か、燃料キャップの締め付け････････････････････････････３６ページ
- 車体各部の損傷、及びボルトやナットの緩み

(3)　運転席に座って
- ブレーキペダル、クラッチペダルの遊びと作動･･････････････････４１・４２ページ
- 駐車ブレーキの作動･･２１・４２ページ
- チェンジレバーの作動･･････････････････････････････････････２０・４０ページ

(4)　エンジンを始動して
- スロットルレバーの作動
- ランプの点灯･･･２５ページ
- 排気ガスの色、異常音･･････････････････････････････････エンジン取扱説明書

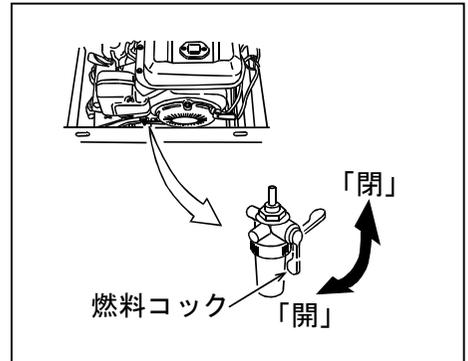
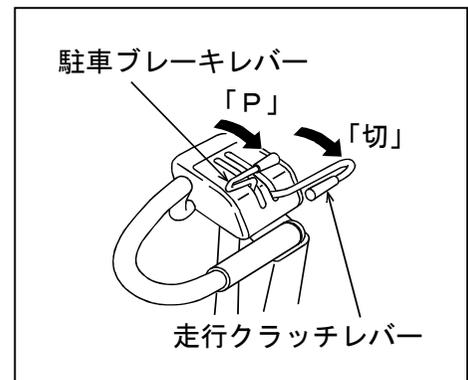
(5)　徐行しながら
- ブレーキの効き･･４２・４３ページ
- ハンドルの操作荷重、振れ、取られ･･････････････････････････３３・４５ページ

作業のしかた

運転操作の要領

■エンジンの始動

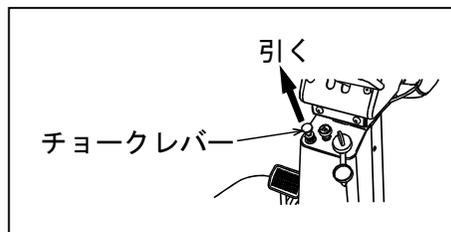
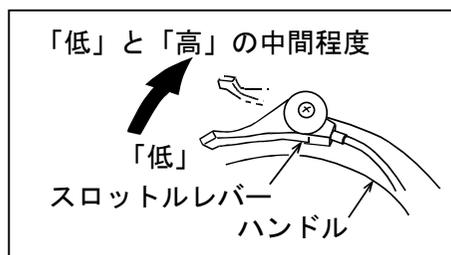
> ⚠警告 ●急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーの位置を「切」にし、周囲の安全を確認してから行ってください。
> ●室内でエンジンを始動するときは、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

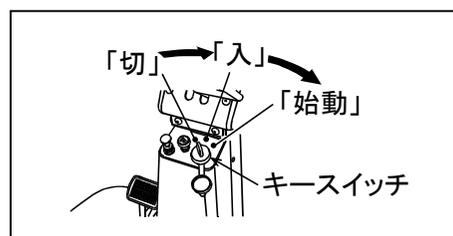
(1)　燃料の量を確認し、燃料コックを開けてください。

(2)　駐車ブレーキがかかっていること・走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認します。

(3)　チェンジレバーを中立「N」位置にします。

(4)　スロットルレバーを「低」と「高」の中間位置まで上げます。

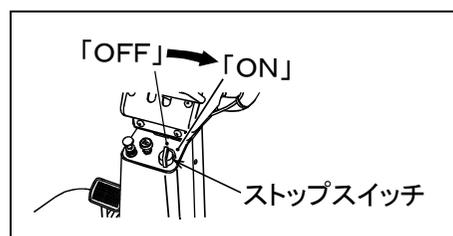
(5)　チョークレバーを引きます。

●いっぱい操作（全閉）します。

※エンジン始動後、チョークレバーは元の位置に戻してください。

セル付　（セル仕様[EB・DEB]）

●キースイッチを「始動」位置に回し、エンジンが始動したら、ただちにキーから手を離します。

リコイル　（セル仕様以外）

●ストップスイッチを「ＯＮ」位置にします。

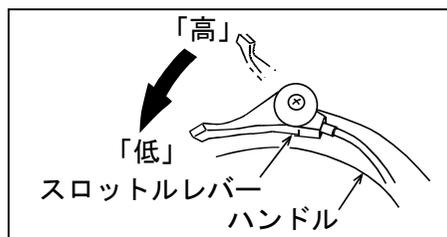
●リコイルスタータを一気に引きます。このとき、リコイルスタータは引ききらないようにしてください。また、ゆっくりと元に戻してください。

注意 ●暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。これを怠ると、機体が自然に動き出し大変危険です。

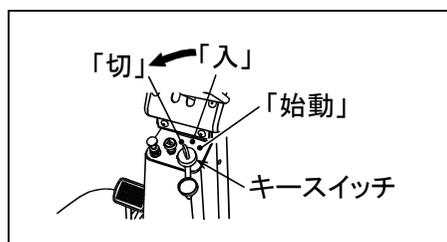
重要 ●エンジンの暖機運転をしないで走行・作業をすると、エンジンの寿命が短くなります。3〜5分程度の暖機運転をしてください。

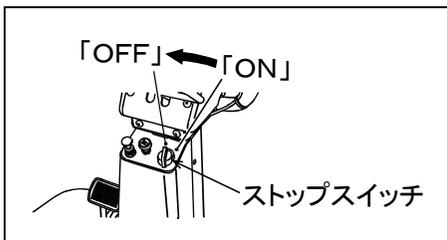
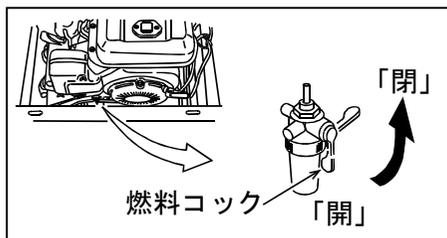
●セルモータを１０秒間回しても始動しないときは、３０秒程休んでから再操作してください。連続使用するとセルモータ破損の原因となります。（セル仕様）

■エンジン停止

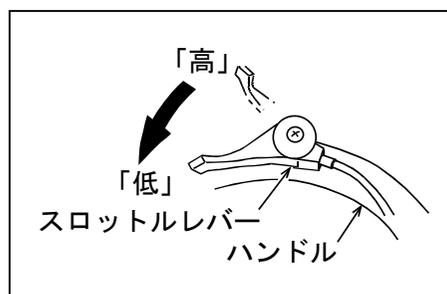
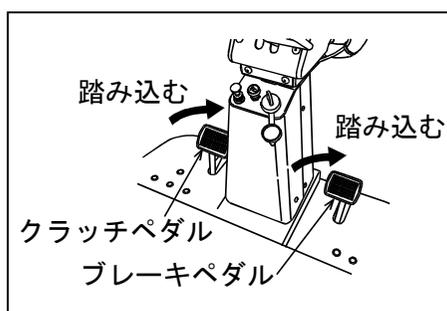
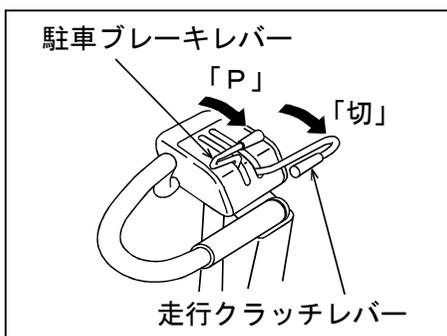
⚠警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

(1)　スロットルレバーを戻して、しばらく低速運転をしてください。

セル付（セル仕様［EB・DEB］）

●キースイッチを「切」位置に回し、エンジンを停止します。

リコイル（セル仕様以外）

●ストップスイッチを「ＯＦＦ」位置にしてエンジンを停止します。

(2)　燃料コックを閉じてください。

重要 ●万一故障し、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで待ってください。
●エンジンを高回転のまま停止しないでください。
●長時間運転後は、アイドリング回転で５～１０分程度の無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

■制動および駐車・停車

(1)　スロットルレバーを操作し、エンジンの回転を下げます。

(2)　クラッチペダルを踏み込むと同時にブレーキペダルを踏み込みます。

(3)　車両が完全に停止してから駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にします。

⚠警告

●積荷や路面の状況により制動距離（停止距離）は変わります。ブレーキは早めに踏みましょう。
●駐・停車する時は、駐車ブレーキを確実にかけてください。
●車両から離れる場合は、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、歯止め（車止め）をしてください。
●緊急時以外には、できるだけ急ブレーキをかけないでください。車体やギヤーボックスに過大な力がかかり、機械の寿命を短くします。

■発進・走行・変速のしかた

⚠危険
●転落・転倒の恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
●障害物に、はさまれる恐れがあります。特に、歩行操作時は、進行方向の安全を常に確認してください。

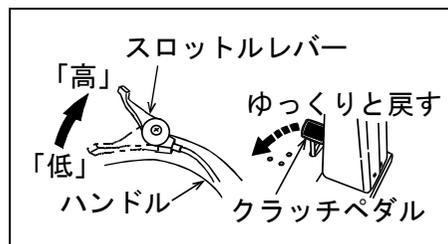
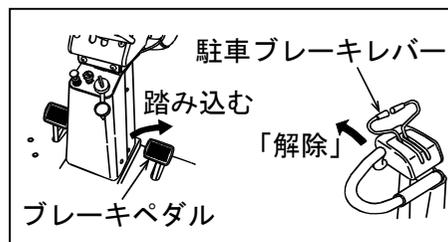
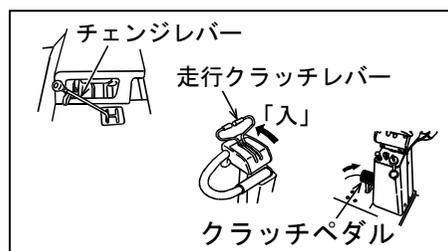
⚠警告
●運転中または、回転中に回転部（ベルト・プーリ等）に触れるとケガをします。触れないでください。

(1)　チェンジレバー「Ｎ」の位置にします。

(2)　走行クラッチレバーを「入」の位置にし、クラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ります。

(3)　チェンジレバーを希望する変速位置に入れます。

(4)　ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキをはずします。

(5)　スロットルレバーでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。

重要
●走行中は、クラッチペダル、およびブレーキペダルから足を離してください。
●Ｖベルトの寿命を伸ばすため、発進以外はできるだけ半クラッチ操作を避けてください。また、速度調整をクラッチペダルで行わないでください。

(6)　変速のしかたについては、２０ページのチェンジレバーの項目をお読みください。

■旋回のしかた

●旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速を行い、低速にしてください。高速で急旋回すると、転倒・転落事故につながり大変危険です。

■坂道での運転

危険

●転落・転倒の恐れがあります。坂道では急旋回・Uターンは避けてください。

■急な登り坂での発進

(1)　駐車ブレーキをかけます。

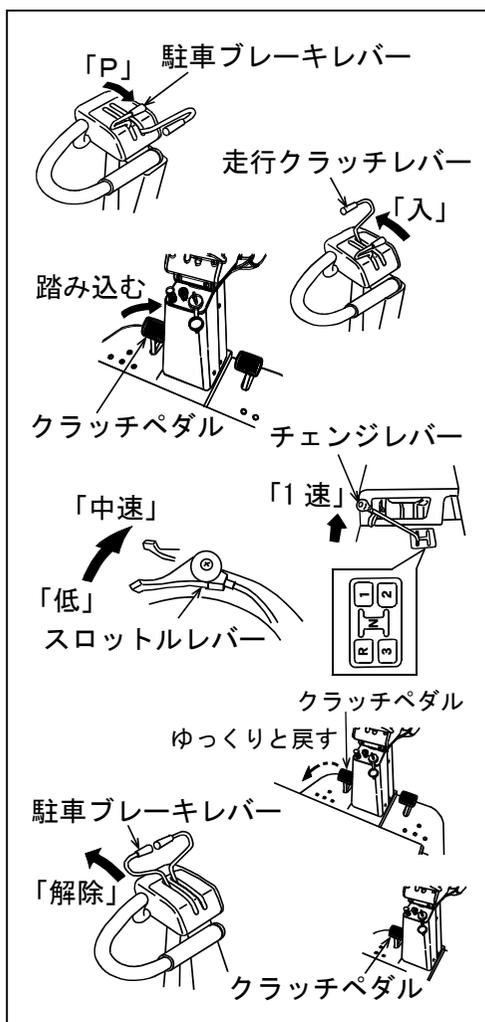
(2)　チェンジレバーを「N」の位置にします。

(3)　走行クラッチレバーを「入」の位置にし、クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。

(4)　チェンジレバーを1速に入れます。

(5)　スロットルレバーでエンジン回転を中速にします。

(6)　クラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。

(7)　同時に駐車ブレーキを解除しながら、エンジン回転を上げ、クラッチペダルから足を離して発進します。

積載要領

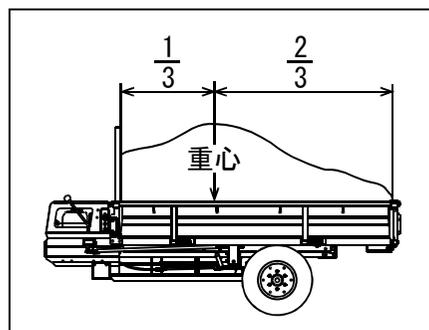
■最大作業能力

⚠警告 ●転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでください。

最大作業能力は下記の通りです。

勾　　配	最大作業能力（ｋｇ）
平 坦 地	６００
１５°以下の下り坂	３００
１５°以下の上り坂	３００

■バランス

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。積荷の重心が荷台前端から荷台長さの１／３付近にあるとき最も安定します。

重要 ●やむをえず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないように、低速で運搬してください。
●積荷を積んで走行する時には、積荷量に応じてハンドルの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

■ダンプ操作（ダンプ仕様［DB・DEB]）

ダンプ操作については、２２ページのダンプレバー項目をお読みください。

点検・整備

増し締め……作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。

⚠警告
●給油および点検をするときは安全を確認して行ってください。
①車両を平坦な広い場所に置く。
②エンジンを止める。
③駐車ブレーキをかける。
④荷台の下部の点検・整備の際は、荷台落下防止棒をセットする。または、十分強度のある木材などで落下防止をする。
※安全を確認せずに点検すると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

＜定期点検整備箇所一覧表＞
本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。

○点検・整備　◎補給　●交換

区分	点検箇所	項目	点検時期（目安）				参照ページ
			始業前	50h 毎	100h 毎	300h 毎	
本体部	ギヤーボックス	油量	○	● 初期		●	37 38
	クラッチペダル	遊び	○				41
	ブレーキペダル	遊び 効き具合	○				42
	各レバー・ペダル類	作動 機能	○				―
	ブレーキシュー	摩耗		○		●	43 44
	タイヤ	空気圧 亀裂	○				45

○点検・整備　◎補給　●交換

区分	点検箇所	項目	点検時期（目安）始業前	50h 毎	100h 毎	300h 毎	参照ページ
本体部	Vベルト	伸び 亀裂	○				40 41 44
	各スイッチ・ランプ類	作動 点灯	○				25 58
	各支点・摺動部	油 グリース		◎			—
	各ボルト・ナット	締付状態	○				—
	バッテリー	液量 接続	○		○		39
	各部ワイヤ	外観 伸び	○				—
	かじ取り装置	遊び 締付状態		○ 初期		○	—
	燃料	量 燃料もれ	○				—
	燃料フィルタ	汚れ	○		○ 洗浄	● ｴﾚﾒﾝﾄ 交換	37
油圧部	油圧ポンプ	油量・油質	○		◎	●	38
	油圧ホース	油もれ 亀裂	○				—
	油圧シリンダ	油もれ	○				—
	摺動部	グリース	○				—

エンジン関係については、「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

重要 ●年に１回は、お求めの販売店にて点検整備を受けてください。

■給油

＜給油箇所一覧表＞

<table>
<tr><th colspan="2">給　油　箇　所</th><th>油　の　種　類</th><th>給　油　量</th><th>参照
ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">本
体</td><td>ギヤーボックス</td><td>ギヤーオイル 90＃（寒冷地 80＃）</td><td>3000cc</td><td>37・38</td></tr>
<tr><td>注油指示部
（黄色マーカ部）</td><td>マシン油またはギヤーオイル</td><td>適　量</td><td>―</td></tr>
<tr><td>各支点・摺動部</td><td>ｷﾞﾔｰｵｲﾙ or ﾘﾁｭｰﾑ系一般ｸﾞﾘｰｽ</td><td>適　量</td><td>―</td></tr>
<tr><td rowspan="2">油
圧</td><td>油圧ポンプ</td><td>ハイドロリックオイルＴＬ　ISO32</td><td>1000cc
(ｼﾘﾝﾀﾞ・ﾎｰｽ内含む)</td><td>38</td></tr>
<tr><td>各支点・摺動部</td><td>ｷﾞﾔｰｵｲﾙ or ﾘﾁｭｰﾑ系一般ｸﾞﾘｰｽ</td><td>適　量</td><td>―</td></tr>
<tr><td colspan="5">エンジンオイルや燃料等については「エンジン取扱説明書」を参照してください。</td></tr>
</table>

重要

●機械にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または、交換をしてください。

●寒冷地（使用時気温－１０°以下）では、油の種類は（　）内の物を使用してください。

●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

■点検と清掃

⚠危険

●火気厳禁
給油時は、エンジンを必ず停止してください。

●燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火爆発・火災の原因になります。

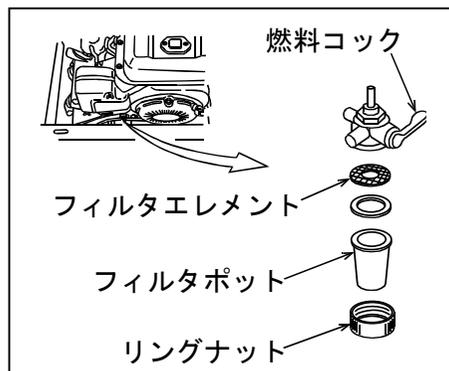
(1)　燃料…自動車用無鉛レギュラーガソリン

●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないように注意してください。

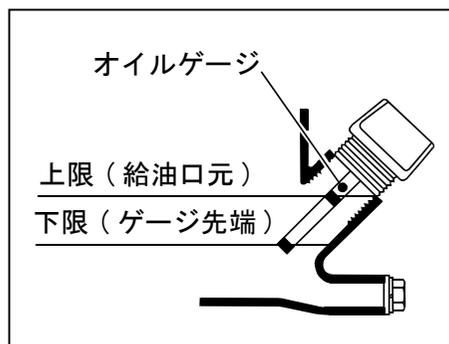
●燃料キャップが締まっているか確認してください。

燃料フィルタの清掃

●燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。

●水・ゴミ等がたまっている場合は、フィルタポットを外し、内部をガソリンで洗浄してください。

エンジンオイル

●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

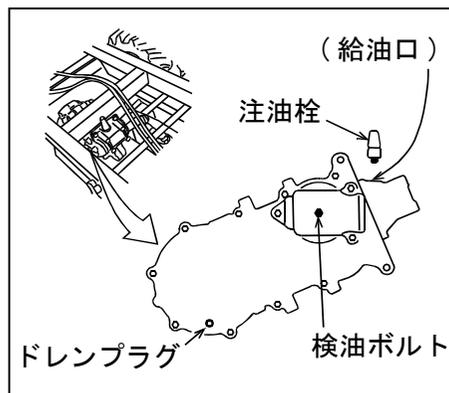
●「下限」以下の場合は、給油口の口元まで補給してください。

重要 ●**エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**

※オイル交換・オイルクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております。「エンジン取扱説明書」をお読みください。

ギヤーボックスへの給油

機体を水平な場所へ移動します。荷台を上げ、給油口の注油栓を外し、ギヤーボックス側面の検油ボルトを抜き、ボルト穴からオイルが流れ出すまで給油してください。

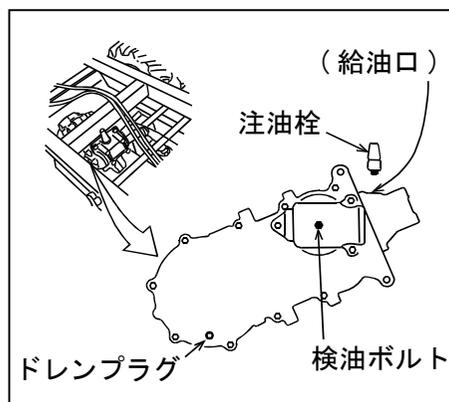
●ダンプ仕様以外…荷台固定ボルトを外し、荷台を上げる。

●ダンプ仕様………荷台をダンプさせる。（22 ページ参照）

ギヤーボックスのオイル交換

●ギヤーボックス下部のドレンプラグを外し、廃油受皿に排出します。

●オイルが出なくなったらドレンプラグを元のようにしっかりと締め込みます。

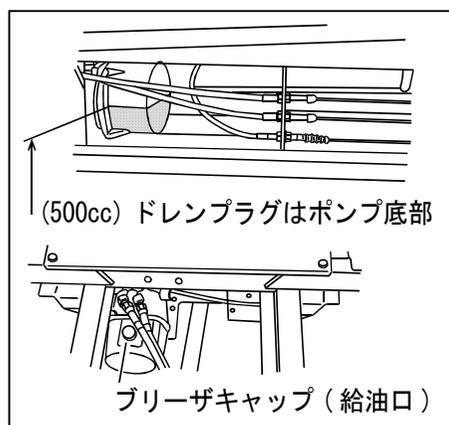
●検油穴の検油ボルトを外し、検油穴よりオイルが出るまで給油します。

●オイル給油後は、注油栓をもとのように差し込んでください。
（※油の種類・量は３６ページ参照）

重要
●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
●廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤーの摩耗などミッション破損の前兆であり、ギヤーボックスの分解チェックを要します。お買い上げいただいた販売店にご相談ください。
●ギヤーボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口よりにじみ出たり、給油栓のエアー抜き穴から出る場合がありますので頻繁に点検し、補給してください。

油圧ポンプへの給油

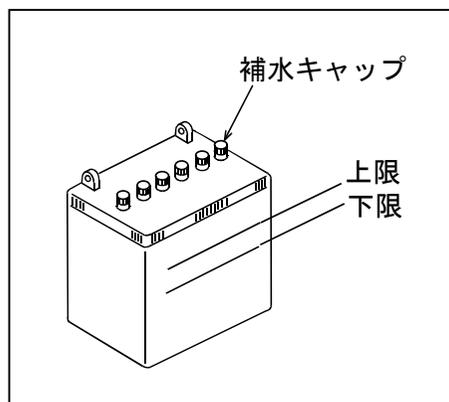
（ダンプ仕様）

●荷台を降ろした状態で、作動油がタンクの半分（500cc）よりやや多めになるよう給油口より給油してください。
●３６ページの給油量（1000cc）は、シリンダやホース内のオイルも含んでいますので、オイル交換の際は、タンクの半分よりやや多めを目安にオイル交換を行ってください。

●油量が多いと、ブリーザキャップのエア抜き穴より、オイルが噴き出る場合があります。

バッテリの点検と取扱い　（セル仕様［EB・DEB］）

⚠警告 ●バッテリーの取扱いを誤ると引火爆発することがあります。ショートやスパークさせたり、火気を近づけたりしないでください。また、バッテリ液で失明や火傷をすることがあります。目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗後、医師の治療を受けてください。

(1)　バッテリーの液量点検

□バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
□不足している場合は、キャップを外し、蒸留水を補給してください。

重要 ●バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命が短くなり、多過ぎると液がこぼれて車体を腐食させます。

(2)　バッテリーの取扱い

□バッテリーは使用しなくても自己放電します。定期的に補充電を行ってください。
夏期……１カ月毎　　　**冬期……２カ月毎**
□本機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

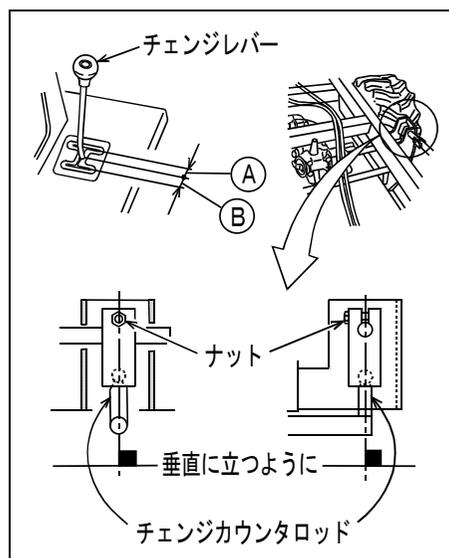
重要 ●バッテリーは、必ず、車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
●バッテリーコード（端子）を取り外すときは、㊀コードを先に外します。バッテリーコード（端子）を取り付けるときは、㊉コードを先に取り付けます。これを怠ると、ショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整および交換

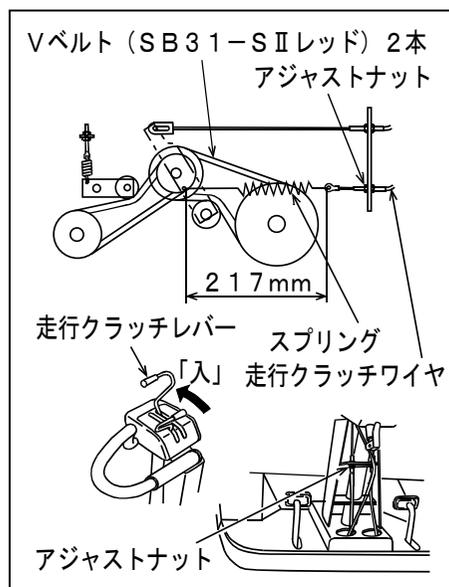
⚠警告 ●各部の点検・調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業してください。

■チェンジレバーの調整

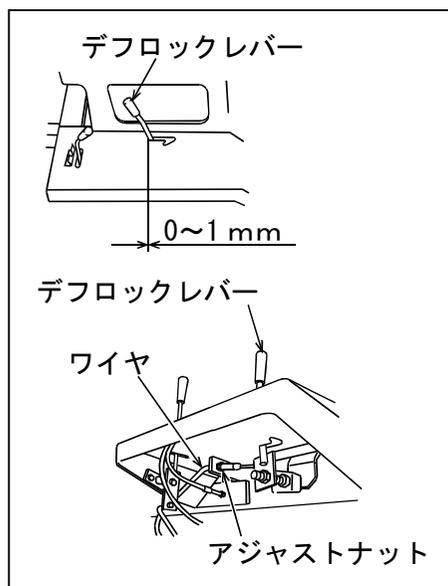
チェンジレバーが各変速位置に入らない場合は、下記要領で調整してください。

●チェンジレバーの位置を右図のように「N」の中央位置にします。
（Ⓐ＝Ⓑとなるように）
●この位置でナットを緩め、チェンジカウンタロッドが機体に対して垂直に立つよう調整してください。

■走行クラッチレバーの調整

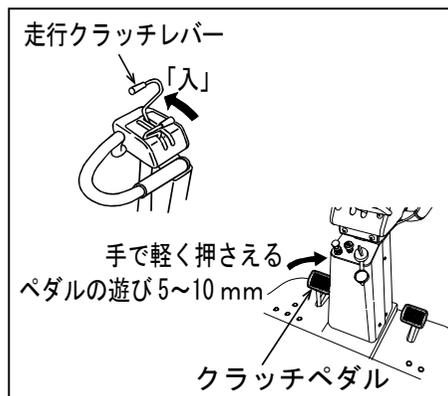
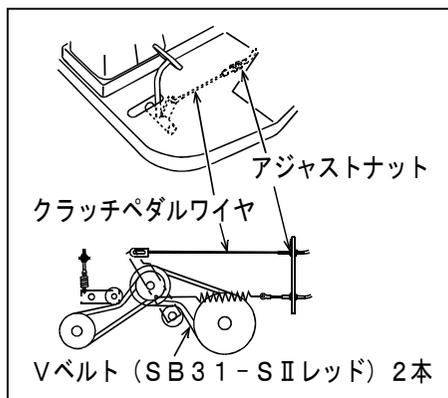
クラッチは、ベルトテンション式のクラッチです。ベルトがスリップして動力の伝達が十分でない場合は、ワイヤのアジャストナットにて調整してください。

●走行クラッチレバーを「入」位置に入れた時、テンションスプリングの伸びが、５ｍｍ（スプリング外寸２１７ｍｍ）になるよう調整してください。

■デフロックレバー

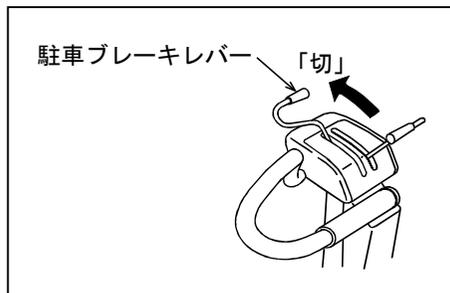
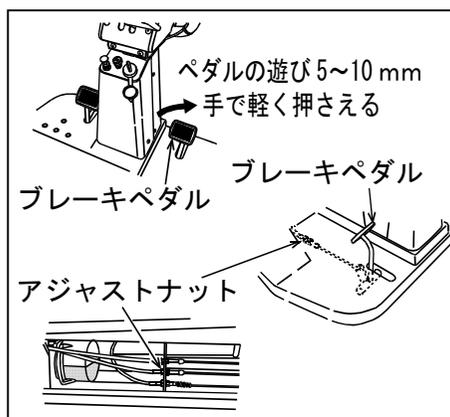
ワイヤの伸び等で、デフロックの切換え不良となった場合は、ワイヤのアジャストナットにて調整を行ってください。

●レバーの遊びが 0〜1 ㎜の間になるよう調整します。

■クラッチペダルの調整

クラッチが切れない、またはすべる場合には、ワイヤのアジャストナットにて調整を行ってください。

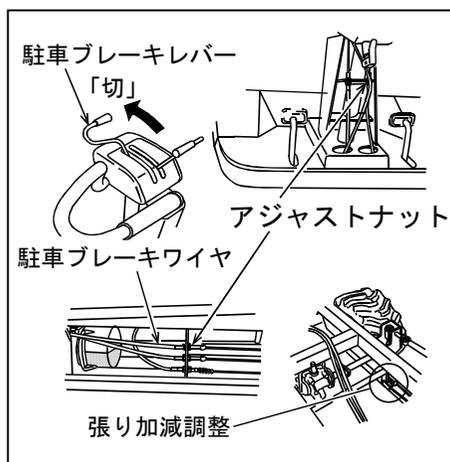
●走行クラッチレバーを「入」位置にしてください。
●ペダルの遊び量を、5〜10 ㎜程度に調整してください。

重要 ●クラッチの調整が悪いと、クラッチぎれ不良やスリップを起こしＶベルト等の損傷につながります。

■ブレーキペダルの調整

> **⚠警告** ●ブレーキレバーを解除しますので、必ず平坦な場所で調整を行ってください。

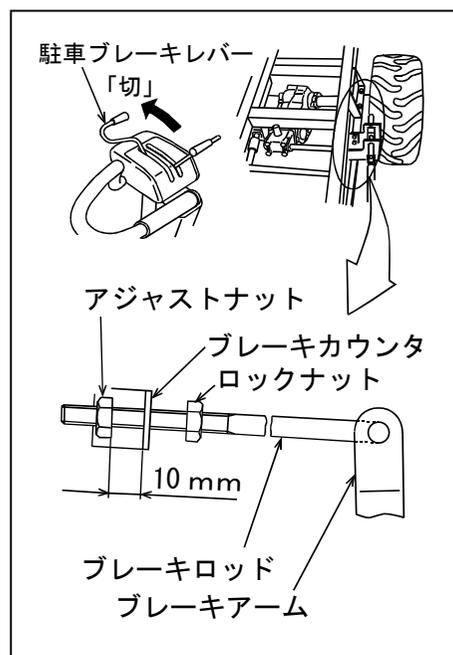
●駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。

●ブレーキペダルを軽く手で押さえ、ペダル先端の遊び量が 0～5 ㎜になるよう、ワイヤのアジャストナットにて調整してください。

■駐車ブレーキレバーの調整

駐車ブレーキの調整をする前に、ブレーキペダルの調整を行ってください。

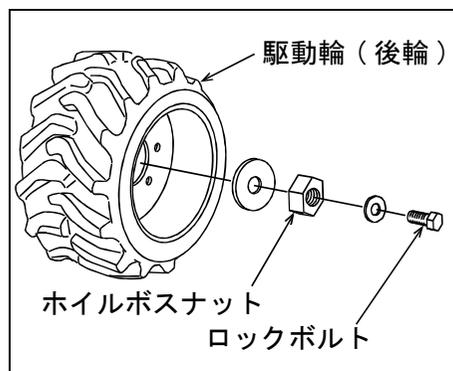
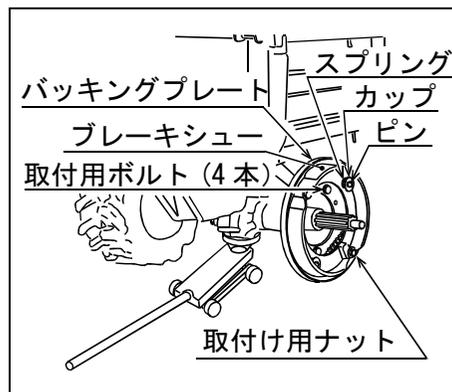
●駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。

●駐車ブレーキワイヤの張り加減が、先に調整したブレーキペダルワイヤの張り加減と同じになるよう、アジャストナットにて調整してください。

■左右のブレーキロッド調整

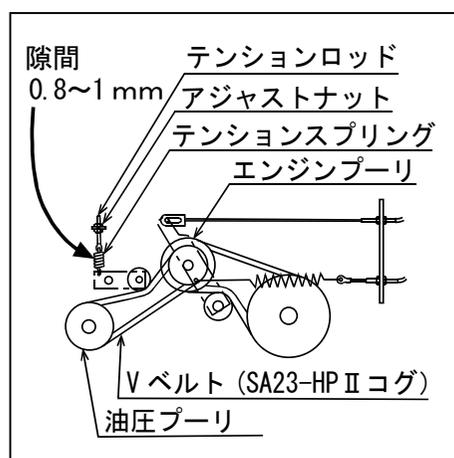
ブレーキシューの摩耗により、ブレーキの効きが悪くなった場合は、特にこの調整が必要です。

●駐車ブレーキを「切」位置に入れてください。
●ロックナットを大きく緩め、ブレーキアームを前方へ押し倒してください。
●ブレーキカウンタとアジャストナットの間隔が 10mm になるよう、アジャストナットを調整してください。
●手を離し、ロックナットだけを回し確実に締め付けてください。
●反対側も同様に行い、駐車ブレーキレバーを「Ｐ」位置にして、ブレーキの効きを確認してください。

重要 ●ブレーキロッドの調整代がなくなった場合は、ブレーキシューの交換が必要です。

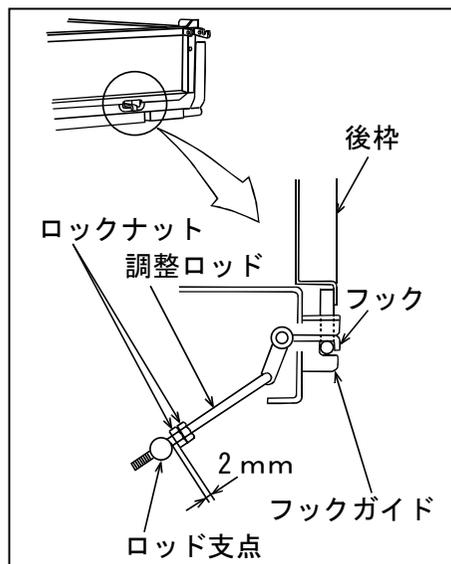
■ブレーキシューの交換

●ジャッキを使用して、交換する側のタイヤを 10 ㎜～20 ㎜浮かせます。
●ロックボルト、およびホイルボスナットを緩め、タイヤを外してください。

●ブレーキシューのズレ止め用ピンをカップを押さえながら 90° 回転させて、カップとスプリングを外します。（2ヵ所）
●ブレーキシュー取付け用ナット（2ヵ所）を緩め、ブレーキシューを外します。
●取外した逆の手順でブレーキシュー、およびタイヤを取付けます。
●ブレーキシュー交換後は、42・43 ページのブレーキ関係調整を行ってください。

重要 ●バッキングプレート取付け用ボルトは、絶対に緩めないでください。緩めると軸心が変わり、ブレーキシューの摩耗原因となるばかりではなく、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。
●ブレーキシューは、左右の車輪を同時に交換することをおすすめします。片側だけ交換すると、ブレーキシューの摩耗がはやくなります。

■油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整（ダンプ仕様［DB・DEB］）

●スプリングのすき間が 0.8～1 ㎜になるように、テンションロッドのアジャストナットを調整してください。

■後枠開閉フックの調整（ダンプ仕様［DB・DEB］）

荷台を 30° 程度ダンプさせると、後枠がフックから外れ、荷台を下まで降ろすと、後枠がフックで固定されます。

- ●荷台を下まで降ろし、ロッド支点と調整ロッドのロックナットとの隙間を 2 ㎜に調整します。
- ●荷台を上下させ、フックがフックガイドなどに干渉しないことを確認します。

重要 ●調整が悪いと後枠が開かなかったり、フックがフックガイドなどに干渉し、フックや調整ロッドの変形につながります。

■タイヤ空気圧

安全と性能を確保するため、タイヤ空気圧を適正に保つことは、非常に大切です。使用前には、必ず点検してください。

タイヤ空気圧

操向輪（前輪）	4.25kg／㎝ ^{2}
駆動輪（後輪）	2.4kg／㎝ ^{2}

手入れと格納

⚠警告 ●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

● 車体は、きれいに清掃しておきましょう。
● 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしてください。
● 格納は、できる限り屋内にしてください。
● 駐車ブレーキを必ずかけてください。
● 荷台は、必ず下げた状態にしてください。(ダンプ仕様)

重要 ●洗車の際は、エンジン・電装品などには圧力水をかけないでください。圧力水をかけると、故障や漏電の原因になります。

■長期格納

● 車体は、きれいに清掃しておきましょう。
● 不具合箇所は整備してください。
● エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分間程度エンジンのアイドリング運転を行い、各部にオイルをゆきわたらせます。
● 各部の給油を必ず行ってください。
● 各部のボルト、ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
● 荷台は、必ず下げた状態にしてください。(ダンプ仕様)
● 駐車ブレーキはかけないで後輪に歯止め(車止め)をしておいてください。
● バッテリーは、外して補充電を行い、液面を正しく調整して、日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。(セル仕様)

■長期格納後の使用

● 始業点検を確実に行ってください。(３４・３５ページの表を参照)
● エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後は１０分間程度のアイドリング運転を行ってください。

不調時の対応のしかた

■本体部

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
クラッチがすべる	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバー調整	４０
	●走行クラッチの不良	●走行クラッチレバー調整	４０
	●クラッチペダルの不良	●クラッチペダル調整	４１
クラッチが切れない	●走行クラッチの不良	●走行クラッチレバー調整	４０
	●クラッチペダルの不良	●クラッチペダル調整	４１
	●クラッチワイヤの不良	●クラッチワイヤ交換	４０・４１
ブレーキの効きが悪い、または片効きである	●ブレーキペダルの不良	●ブレーキペダル調整	４２
	●駐車ブレーキレバーの不良	●駐車ブレーキレバー調整	４２
	●左右ブレーキロッドの不良	●左右ブレーキロッド調整	４３
	●ブレーキシューの摩耗	●ブレーキシュー交換	４３・４４
ブレーキペダルの戻りが悪い	●ブレーキ戻しスプリングの損傷・脱落	●スプリング交換	４４
	●各摺動部のグリース切れ	●グリースを注油	－
チェンジレバーが各変速位置に入らない	●チェンジレバーの不良	●チェンジレバー調整	４０
	●チェンジレバーの変形	●サービス工場で交換	－
走行クラッチレバーを「入」にしても走らない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバー調整	４０
	●走行ベルトの損傷・摩耗	●ベルト交換	４０・４１
	●駐車ブレーキのロック	●ブレーキ解除	２１
走行クラッチレバーを「切」にしても停止しない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバー調整およびベルトストッパ調整	４０・４１

不調時の対応のしかた

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
出力不足	●過積載	●積載量を減らす	３３
	●気化器の不良	●サービス工場で清掃・調整または交換	※
	●点火プラグ不良	●清掃または交換	※
	●エアクリーナのつまり	●エレメント清掃または交換	※
	●エンジンオイルの汚れ大	●オイル交換	※
マフラから異常な煙が出る	●エアクリーナのつまり	●エレメント清掃または交換	※
	●燃料不足	●正規燃料に入れ換える。	※
	●エンジンオイル量過多	●適正量にする。	３７
	●気化器の不良	●サービス工場で清掃・調整または交換	－
セルモータが回らない（セル仕様のみ）	●バッテリーの過放電	●充電または交換	３９
	●ヒューズ切れ	●ヒューズ交換	５８
	●キースイッチ不良	●キースイッチ交換	２５
	●配線関係不良	●修理または交換	６０
	●セルモータの故障	●サービス工場で修理または交換	－
セルモータは回るがエンジンがかからない（セル仕様のみ）	●燃料コック開き忘れ	●コックを開ける	２７
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃	３７
	●点火プラグ不良	●清掃または交換	※
	●気化器のつまり	●サービス工場で修理または交換	－

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」を参照してください。

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
ハンドルが重い ハンドルが取られる	●タイヤ空気圧が不足、または不揃い	●規定空気圧に調整	４５
	●タイヤのパンク・摩耗	●タイヤ交換	５９
ダンプレバーを操作しても動かない (ﾀﾞﾝﾌﾟ仕様のみ)	●過積載	●積載量を減らす	３３
	●油圧駆動ベルトのスリップ	●張り調整または交換	４４
	●作動油不足	●作動油の補給	３８
ダンプの能力が出ない (ﾀﾞﾝﾌﾟ仕様のみ)	●シリンダ内にエアー混入	●エアー抜き	－
	●作動油不足または質の低下	●作動油の補給または交換	３８
	●作動油のもれ	●増し締めまたは交換	－

■電装関係

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
ランプが暗い	●バッテリー性能低下（セル仕様）	●バッテリー充電または交換	３９
	●エンジン発電不足	●サービス工場で修理または部品交換	※
ランプが点灯しない	●電球切れ（断線）	●電球交換	５８・５９
	●ヒューズ切れ（セル仕様のみ）	●ヒューズ交換（１０A）	５８・５９
	●接触不良	●アースおよびターミナル	
バッテリーが充電されない （セル仕様のみ）	●エンジン発電不良	●サービス工場で修理または部品交換	－
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	５８
	●バッテリー機能不良	●端子のゆるみ、腐食、電解液の不足等を修正またはバッテリーの交換	３９・５８

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」を参照してください。

■エンジン部

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
始動困難	●始動操作不良	●正しく操作	２７・２８
	●燃料コック開き忘れ	●コックを開ける	２７・２８
	●点火プラグ不良	●清掃または交換	※
	●燃料切れ	●燃料補給	３６
エンジン回転が不規則	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃	３７
	●点火プラグ不良	●清掃または交換	※
	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグ不良	●清掃または交換	※
	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃または交換	※
	●スロットルの不良	●スロットルの調整	※
運転中に突然エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	３６
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイル補給	３７
	●オイル不足によるエンジン焼付	●サービス工場に依頼	－

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」を参照してください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、ホイル型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を「作業安全基準」より抜粋しております。事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するための注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得
農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害をおよぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件
次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。
●精神病者
●酒気をおびたもの
●若年者
●未熟練者
　過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。
激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全
暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間、及び方法等を十分検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

(4) 安全のための機械管理

①日常の点検整備
　農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

②防護装置の点検
- ●機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制御装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- ●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備、または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③掲げ装置の落下の防止
　作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合は、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④整備工具の管理
　点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

①引火・爆発物の取り扱い
　引火又は、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

②火災予防の措置
　火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

　次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

①頭の傷害防止の措置
　機械からの墜落、および落下物の恐れの大きい場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置
　原動機若しくは動力伝動装置のある作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の障害、およびスリップ防止の措置
　機械作業において、作業機等の落下、土や石ころの飛散、踏付け、踏抜、およびスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん、および有害ガスに対する措置
　多量の粉じん、および有害ガスが発生する作業にあっては、粉じん、および有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置
　防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置
　激しい騒音の伴う作業にあたっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い
　安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備

- ●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
- ●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

- ●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- ●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

- ●機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。
- ●非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。
- ●機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

- ●運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

- ●傾斜地における機械作業においては、機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。
- ●圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
- ●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

- ●動力伝導装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

⑤道路走行の安全

- ●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- ●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- ●悪条件の道路での高速運転の禁止
  凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- ●坂道時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。

夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

①終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②機械の安全管理

作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

名称			ホイル型運搬車	
型式			ＳＬ３０Ｂ	ＳＬ３０ＥＢ
最大積載量（ｋｇ）			６００	
車体	重量 （ｋｇ）		３１０	３２５
	全長 （ｍｍ）		２９４０(圃場内乗車時)～３２８０(歩行時)	
	全幅 （ｍｍ）		１２１０	
	全高 （ｍｍ）		１２８０	
荷台内寸（長×幅×枠高）（ｍｍ）			１８３０×１０８０×２４０	
荷台面地上高（ｍｍ）			５２０	
走行部	走行形式		３輪（２輪駆動）	
	操向形式		前１輪操向	
	ブレーキ形式		内拡式（後２輪 φ１８０）	
	タイヤサイズ	前輪	ＨＣ４．００－８－６ＰＲ	
		後輪	ＡＧ１９×８．００－１０－４ＰＲ	
	トレッド （ｍｍ）	前輪	―――	
		後輪	７７０	
	ホイールベース（ｍｍ）		１８２５	
	変速段数		前進－３速，後進－１速	
	走行速 (km/h) 前進	第１速	３．３	
		第２速	６．５	
		第３速	１０．２	
	走行速 (km/h) 後進	第１速	３．３	
最低地上高（ｍｍ）			１４５	
最小回転半径（ｍ）			２．３０	
エンジン	種類・型式		空冷ｶﾞｿﾘﾝ・FE170G-X	空冷ｶﾞｿﾘﾝ・FE170G-SX
	定格(最大)出力(kW{PS}min^{-1})		3.1{4.2}/1800（4.1{5.6}/2000）	
	最大ﾄﾙｸ(Nm{kgf・m}/ min^{-1})		22.1{2.25}/1400	
	総排気量（ｃｃ）		１７１	
	燃料（タンク容量）（ℓ）		自動車用無鉛ガソリン（３．４）	
	始動装置		リコイルスタータ	セルスタータ
	発電装置		６Ｖ－１５Ｗ	１２Ｖ－２５Ｗ・レギュレター

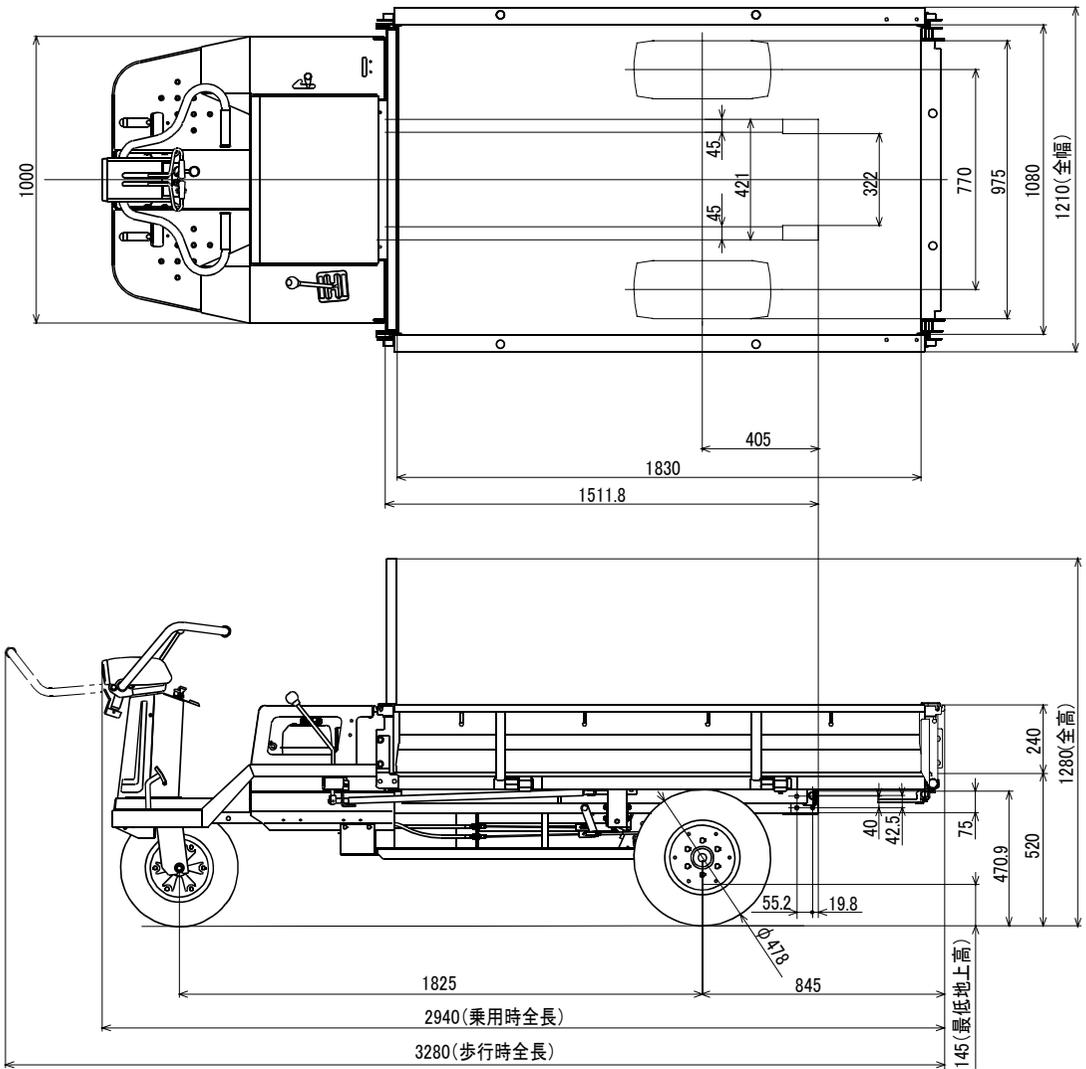
<table>
<tr><td colspan="4">名　　称</td><td colspan="2">ホ イ ル 型 運 搬 車</td></tr>
<tr><td colspan="4">型　　式</td><td>ＳＬ３０ＤＢ</td><td>ＳＬ３０ＤＥＢ</td></tr>
<tr><td colspan="4">最大積載量（ｋｇ）</td><td colspan="2">６００</td></tr>
<tr><td rowspan="4">車体</td><td colspan="3">重　量（ｋｇ）</td><td>３５５</td><td>３７０</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　長（mm）</td><td colspan="2">２９４０(圃場内乗車時)～３２８０(歩行時)</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　幅（mm）</td><td colspan="2">１２１０</td></tr>
<tr><td colspan="3">全　高（mm）</td><td colspan="2">１２８０</td></tr>
<tr><td colspan="4">荷台内寸（長×幅×枠高）（mm）</td><td colspan="2">１８３０×１０８０×２４０</td></tr>
<tr><td colspan="4">荷台面地上高（mm）</td><td colspan="2">５２０</td></tr>
<tr><td rowspan="14">走行部</td><td colspan="3">走行形式</td><td colspan="2">３輪（２輪駆動）</td></tr>
<tr><td colspan="3">操向形式</td><td colspan="2">前１輪操向</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキ形式</td><td colspan="2">内拡式（後２輪　φ１８０）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</td><td>前　輪</td><td colspan="2">ＨＣ４．００－８－６ＰＲ</td></tr>
<tr><td>後　輪</td><td colspan="2">ＡＧ１９×８．００－１０－４ＰＲ</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">トレッド（mm）</td><td>前　輪</td><td colspan="2">――――</td></tr>
<tr><td>後　輪</td><td colspan="2">７７０</td></tr>
<tr><td colspan="3">ホイールベース（mm）</td><td colspan="2">１８２５</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速段数</td><td colspan="2">前進－３速，後進－１速</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行速
(km/h)</td><td rowspan="3">前　進</td><td>第１速</td><td colspan="2">３．３</td></tr>
<tr><td>第２速</td><td colspan="2">６．５</td></tr>
<tr><td>第３速</td><td colspan="2">１０．２</td></tr>
<tr><td>後　進</td><td>第１速</td><td colspan="2">３．３</td></tr>
<tr><td colspan="4">最低地上高（ｍｍ）</td><td colspan="2">１４５</td></tr>
<tr><td colspan="4">最小回転半径（ｍ）</td><td colspan="2">２．３０</td></tr>
<tr><td rowspan="7">エンジン</td><td colspan="3">種類・型式</td><td>空冷ｶﾞｿﾘﾝ・FE170G-X</td><td>空冷ｶﾞｿﾘﾝ・FE170G-SX</td></tr>
<tr><td colspan="3">定格(最大)出力(kW{PS}min^{-1})</td><td colspan="2">3.1{4.2}/1800（4.1{5.6}/2000）</td></tr>
<tr><td colspan="3">最大トルク(Nm{kgf・m}/ min^{-1})</td><td colspan="2">22.1{2.25}/1400</td></tr>
<tr><td colspan="3">総排気量（ｃｃ）</td><td colspan="2">１７１</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料（タンク容量）（ℓ）</td><td colspan="2">自動車用無鉛ガソリン（３．４）</td></tr>
<tr><td colspan="3">始動装置</td><td>リコイルスタータ</td><td>セルスタータ</td></tr>
<tr><td colspan="3">発電装置</td><td>６Ｖ－１５Ｗ</td><td>１２Ｖ－２５Ｗ・レギュレーター</td></tr>
<tr><td rowspan="4">作業</td><td colspan="3">名称</td><td>――――</td><td>油圧ダンプ</td></tr>
<tr><td colspan="3">最大能力（ｋｇ）</td><td>――――</td><td>６００</td></tr>
<tr><td colspan="3">装置仕様</td><td>――――</td><td>複動油圧ｼﾘﾝﾀﾞ</td></tr>
<tr><td colspan="3">ダンプ角度（度）</td><td>――――</td><td>６０</td></tr>
</table>

外観図

本図は、ＳＬ３０（標準仕様）

本図は、ＳＬ３０（ダンプ仕様）

配線図

セル仕様［ＥＢ・ＤＥＢ］

主な消耗品

●主な消耗品

項目	該当型式	使用箇所	品名	部品番号
タイヤ	全型式	前輪用	タイヤ	0410-302-201-0
			チューブ	0410-302-202-0
		後輪用	タイヤ	0437-340-201-0
			チューブ	0437-340-202-0
Ｖベルト	全型式	走行用	Ｖベルト	V817-200-031-0
	ダンプ仕様	油圧用	ベルト(V ｺｸﾞ A23-A)	0439-520-011-0
電球	セル仕様	ランプ内	12V-20W/20W(S25)	0437-711-201-1A
	セル仕様外		6V-15W/15W (S25)	0437-710-201-1A
ヒューズ	セル仕様	電気配線	ヒューズ１０Ａ	0450-505-016-0
ブレーキシュー	全型式	後輪部	ブレーキシュー	0439-330-201-0

索引

困ったり、わからないことがあれば

販売店

住所　〒　－

TEL　－　－

担当；

までご連絡ください。

型　　式	
製造番号	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する

株式会社アテックス

本　　　社	愛媛県松山市衣山１丁目２－５	〒791－8524
	TEL（089）924－7161（代）FAX（089）925－0771	
	TEL（089）924－7162（営業直通）	
	ホームページ http://www.atexnet.co.jp/	
東北営業所	岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第 11 地割北川 505 - 1	〒028－3621
	TEL（019）697－0220（代）FAX（019）697－0221	
関東支店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋６６３３	〒306-0313
	TEL（0280）84－4231（代）FAX（0280）84－4233	
中部営業所	岐阜県大垣市本今５丁目１２８	〒503-0931
	TEL（0584）89－8141（代）FAX（0548）89－8155	
中四国支店	愛媛県松山市衣山１丁目２－５	〒791-8524
	TEL（089）924－7162　FAX（089）925－0771	
九州営業所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水１２６２－１	〒869-1102
	TEL（096）292－3076（代）FAX（096）292－3423	
部品センター	愛媛県松山市馬木町８９９－６	〒799-2655
	TEL（089）979－5910（代）FAX（089）979－5950	

部品コード	0439−941−022−0